



# SUPERBIKE EXtra, EXpert and EXtreme EXPRESS--

## 中須賀克行が高橋巧との一騎打ちを制し先勝! 予選では1分46秒台の驚異的なタイムでWポール

今年もツインリンクもてぎで開幕戦を迎えた全日本ロードレース選手権。3月27日(水)から行われた公開テスト、そして木曜日から走り始めたレースウィークでセッションをリードしてきた中須賀克行と高橋巧が公式予選からガチンコ勝負を繰り広げた。

45分間で行われた公式予選では、セッション前半で中須賀と高橋がランデブーでタイムアタック。お互いの調子を探り合いながらも2人も1分47秒フラットまでタイムを詰めていた。一度ピットインし、リアタイヤを交換した中須賀は、うまくクリアラップを取り、何とただ一人1分46秒台に突入! 自身の持つコースレコードを大幅に塗り替える1分46秒878をマーク。レース2のグリッドを決めるセカンドタイムでもトップとなりダブルポールポジションを獲得した。一方、高橋も両レースとも2番手グリッドを確保し、2人が抜きん出ている存在となっていた。

23周で争われたレース1。中須賀がポールポジションからホールショットを奪い、渡辺一樹、高橋、水野涼、加賀山就臣、秋吉耕佑、野左根航汰、渡辺一馬、津田拓也、津田一磨、岩戸亮介、前田恵助、羽田太河と続いていた。トップの中須賀は、高橋が渡辺一樹に引っかかっている間にリードを広げべくペースを上げるが、予選のときより路面温度が上がっておりスタート時で41度となっていた。その影

響からか、フィーリングが変わっており、思うようにペースを上げることができない。高橋は、そんな中須賀を見ながら“それほど離れていかないな”と思い、冷静に前にいる渡辺一樹を3周目の5コーナーでパスし2番手に上がると、その差を詰めて行く。健闘していた渡辺一樹は、徐々に遅れ、トップ争いは中須賀と高橋の一騎打ちとなって行く。後方では、出遅れていた野左根が水野をS字コーナー進入でパスし4番手に上がってくる。水野の後方には、渡辺一馬、秋吉が迫って来ている。

トップ争いは、中須賀のテールに高橋が迫り、3番手の渡辺一樹の背後には野左根が迫り、6周目のV字コーナーでインを突き前に出て行く。後方では渡辺一馬が水野をかわし5番手に浮上していた。

マッチレースとなったトップ争いが動いたのは9周目だった。S字コーナーの進入でインを奪った高橋だが、中須賀も負けじと切り返しでかぶせていくが、コーナー立ち上がりで高橋が前に行きトップに浮上する。セカンドアンダーブリッジ過ぎの左高速コーナー進入で中須賀は、高橋をかわすが、クリッピングポイントから切り返しで高橋が前に行きトップでコントロールラインを通過するが、レース1では、高橋がトップでホームストレートを走るのは、このときが最初で最後だった。中須賀は、2コー

ナーで高橋のインから前に出るとレースをリード。高橋もビタリと中須賀のテールをマークし、最後のスパートに備えていた。そして、その予想通り中須賀はラストスパートをかける。高橋も呼応し、ペースを上げ、ファステストラップをマークするが、ラストラップに1分47秒台に入れた中須賀が、高橋に勝負するすきを与えずトップでゴール。2019年シーズン最初のレースを制した。高橋は悔しい2位だが、開幕前のトレーニング中にケガをした昨年と比べれば、事前テストからの流れは悪くない。レース2での巻き返しを誓っていた。

3位には、単独走行となっていた野左根が入り、4位に渡辺一樹、5位に渡辺一馬、6位に水野、7位に秋吉、8位に加賀山、9位にザクワン・ザイディ、10位に岩戸亮介というトップ10となった。

セカンドタイムで決まったレース2のグリッドだが、4列目まではレース1と全く同じメンバーとなっている。日曜日の天気予報は、やや気温が下がるもののドライコンディションでのレースとなりそうだ。やはりレース2も中須賀と高橋の戦いになるだろう。事前テストから野左根と一緒に走りペースアップを計っていた中須賀としては、高橋との間に野左根が入ってくることが理想だ。野左根が、どこまで2人に迫ることができるか!? レース2もハイレベルな戦いになることは間違いない。

**JSB 1000**  
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP



レース1ポールポジション: R 1'46.878  
レース2ポールポジション: R 1'47.047  
**#1 中須賀克行**  
**YAMAHA FACTORY RACING TEAM**

『レース1では、公式予選のときより路面温度と風向きが変ったからかグリップ感がなく1コーナーで止まっても、3コーナーでうまく止まることができずリズム作りづらい状況でした。その中で1分48秒前半まで走っていましたが、高橋選手が仕掛けてこなかったの、同じような状況なんだと思い、一度前に出られたのですが、すぐに抜き返してトップを走ることを選択しました。事前テストでは、高橋選手が驚異的なアベレージスピードで走っていたので、その時点では、コンマ3、4秒遅れていたのだから5秒遅れでゴールという状況でした。そこからチームも頑張ってくれたのでレースウィークでアベレージも上がってきました。接戦になると思っていたので、勝つことができてうれしいです』

**JSB1000 決勝 [Race1] 正式結果表**

●予選・決勝: 天候 / 晴 路面 / ドライ  
●決勝[Race1] / 4月6日(土) 13:40~(23周)

Pos No	Rider	Team
1	1 中須賀 克行	YAMAHA FACTORY RACING TEAM
2	13 高橋 巧	Team HRC
3	4 野左根 航汰	YAMAHA FACTORY RACING TEAM
4	26 渡辺 一樹	ヨシムラスズキMOTUL
5	23 渡辺 一馬	Kawasaki Team GREEN
6	634 水野 涼	MuSASHi RT HARC-PRO.Honda
7	090 秋吉 耕佑	au・テルル MotoUP RT
8	12 加賀山 就臣	ヨシムラスズキMOTUL
9	15 Zaqhwan Zaidi	Honda Asia-Dream Racing with SHOWA
10	64 岩戸 亮介	Kawasaki Team GREEN
11	75 前田 恵助	YAMALUBE RACING TEAM
12	71 津田 拓也	TK SUZUKI BLUE MAX
13	19 8h 濱原 颯道	Honda Dream RT 桜井ホンダ
14	18 津田 一磨	Team Baby Face
15	46 8h 星野 知也	TONE RT SYNCEDGE4413
16	44 関口 太郎	Team ATJ
17	3 8h Mark Aitchison	KRP三陽工業&RS-ITOH
18	35 8h 亀井 雄大	Honda Suzuki Racing Team
19	36 今野 由寛	Moto Map SUPPLY
20	27 8h 柴田 義将	NIPPON SUMATRA BIO MASSE+D3
21	22 8h 児玉 勇太	TEAM KODAMA
22	30 8h 須貝 義行	チームスガイレーシングジャパン
23	76 8h 豊田 浩史	NIPPON SUMATRA BIO MASSE+D1
24	85 8h 中富 伸一	HITMAN RC甲子園ヤマハ
25	79 8h 高橋 勇輝	HondaブルーヘルメットMSC
以上規定周回数まで:		
	080 羽田 太河	au・テルル MotoUP RT
	87 8h 柳川 明	will-raise racingRS-ITOH

※8h=2018-2019鈴鹿8耐トライアウト対象者  
※参加台数 32台 / 出走台数 27台  
※"R"マークの車は、コースレコードを更新しました。  
従来のレコードタイムは 1'48.460  
※BEST TIME  
No.13 高橋 巧 Team HRC 1'47.849 17/23 160.27km/h  
※規定周回数 17

**JP 250** Presented by DUNLOP

**笠井悠太(INT)、佐々木将旭(NAT)が優勝!!**

2019 MFJカップJP250選手権 第1戦もてぎの決勝レースは、予選2番手の吉澤隆がホールショットを奪うものの、その後続くポールポジションの笠井悠太がトップを奪ってオープニングラップを終了。

10週のレース序盤からトップ笠井と中村龍之介、佐々木将旭、吉澤、永島潤太郎の5台が周回ごとに順位を入れ替えながら激しく続いた。笠井はポールトゥウィンで緒戦を飾った。(写真:インタークラス表彰台)



**決勝正式結果(10周 / 上位10位)**

●4月6日(土) 予選・決勝 天候 / 晴 路面 / ドライ 出走30台

Pos No	Cls.	Rider	Team	RaceTime
1	20	1 笠井 悠太	TEAM TEC.2	22'25.606
2	37	1 2 中村 龍之介	ENDLESS TEAM SHANTI	22'26.350
3	35	1 佐々木 将旭	Team KYOEI GO&FUN	22'27.643
4	33	1 3 永島 潤太郎	チームライフ・ドリム北九州	22'27.703
5	56	2 2 櫻井 芽依	キジマKISSレーシングチーム	22'37.616
6	49	3 3 松岡 鈴	キジマKISSレーシングチーム	22'37.694
7	31	4 4 富田 一輝	ATJ-Racing & NMC	22'37.809
8	22	5 5 岡部 怜	Team i-FACTORY	22'47.641
9	3	1 4 谷本 音紅郎	speedheart DOGFIGHTR YAMAHA	22'47.858
10	27	1 5 石井 千優	TONE RT 千葉北谷ハイコース+H-NPLAN	22'47.982

**J-GP2**  
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP  
QUALIFYING PRACTICE REPORT & INTERVIEW

**名越哲平が2度目のポールポジション獲得!!**  
「チャンピオンは絶対条件。勝てるチャンスは必ず活かす!!」



名越哲平

今シーズンが最後のシリーズということもあり、今回のエントリーが9台となったJ-GP2クラス。35分のセッションで1分53秒850で序盤からトップに立ったのは名越哲平。尾野弘樹が54秒048で続き、練習走行でタイムを出していた2台がこどもで競り合う形に。3番手には54秒204で作本輝介。

セッションの後半に名越は53秒261までタイムを更新し、そのまま昨年開幕戦以来の2度目となるポールポ

ジションを決めた。尾野も53秒670にタイムアップ、53秒台はこの2名のみ。3番手には岩崎哲朗が終盤に54秒176をマークし、作本を逆転してポジションを上げた。1'54.247で小谷咲斗、1'54.545で榎戸育寛が続く。

目標の52秒台には届かなかったが、決勝に向けては、テストから非常に良い感触があるという名越。集中力を切らさず、勝ちにこだわりたいという、その走りスタイルとちとのレース展開に期待しよう。



ポールポジション: 1'53.261  
**#634 名越哲平**  
**MuSASHi RT HARC-PRO.**

『目標としては52秒台だったんですけど、チームと色々調整を進めて行って、ウィーク2日間の練習走行でも良い感触はありました。だから、まずは今の場所にいられることにホッとしています。去年の雨の開幕戦では、ポールポジションを獲れているんですけど、でも自らのミスで結局リタイアに終わってしまっているの、大切なのは決勝レースだということと、自分を落ち着かせながら、レースをきっちりと優勝できるように取り組みます。22周と長いですが、自分自身の集中力を切らさずに走りできれば、優勝は見えて来ると思っています』

**ST 600**  
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP  
QUALIFYING PRACTICE  
REPORT & INTERVIEW

## 岡本裕生が唯一の53秒台でポールポジション! 「タイムをさらに上げ、逃げるスタイルを貫き通す!」



岡本裕生

土曜日最後の予選となったST600クラスは、序盤トップにいた荒川晃大、南本宗一郎、長尾健史上位陣に、#1を付ける岡本裕生が割って入り、各ライダーも続々と54秒台にタイムを上げてきた。その中で長尾健吾が1分54秒027でトップに浮上、南本が54秒143、岡本が54秒338で続く。

セッション中盤に入ると岡本が遂に53秒866と唯一53秒台に入れてトップを奪う展開に。小山知良も54秒791、続いて國峰琢磨も54秒792で4・5位とな

る。終盤に入っても大きく順位は変わらなかったが、今季からST600にスイッチした菅原陸が54秒745で5番手にポジションをアップ。小山も54秒352まで上げて4番手をキープ。

ところが、残り10分を切る頃に、最後のアタックに臨むべくピットを離れた岡本が90度コーナーで転倒するアクシデント。しかし、岡本のタイムを更新するライダーは現れず、そのままポールポジションを獲得した。決勝レースには転倒の影響はないということだ。



**ポールポジション: 1'53.866**  
**#1 岡本裕生**  
**51ガレージニトロレーシング**

『転んでしまったので、マイナス80点くらいですね(笑)。身体へのダメージはまったくありません。マシンも軽傷で問題はないと思います。予選ではクリアラップのために後ろの方から出て行く事にしたんですが、それでもなかなかクリアラップが取れない中で出したタイムが、結局今日のタイムになってしまいました。目標は53秒前半でしたので、コンマ5秒くらいはまだ足りない感じですね。マシンは木曜にシェイクダウンしたばかりですが、それでも去年のベストから1秒近く上回っていますので、決勝はこのまゝいけば手応えはあります。小山さんは必ず来ると思いますが、しっかりと自分のスタイルを突き通せばいいかなと思っています』

**J-GP3**  
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP  
QUALIFYING PRACTICE  
REPORT & INTERVIEW

## 安村武志、大逆転でクラス初ポールポジション! 「この歳でもまだ勝てそうな気がする。その想いで決勝に臨む」



安村武志

快晴に恵まれたツインリンクもてぎ。全日本開幕戦に相応しい気候の中で、最初のJ-GP3クラスの公式予選が始まった。

35分のセッション、当初は練習走行から好調の中山愛理、岡崎静夏、鈴木大空翔、安村武志らが2分02秒台で上位に付ける展開。その中で岡崎が02秒042をマークしてセッション序盤のトップに立つ。

再び動きのあったのは終盤に入る頃、福嶋佑斗が

02秒196をマークして2番手に浮上するが、中山も02秒119とこれを再び逆転、岡崎、中山、福嶋がトップ3でセッションは残り5分の最終盤に。中山が02秒028でトップに立つが、福嶋が遂に01秒892と01秒台に入れてトップを奪う。しかし、アタックを続ける中山がベストを更新し01秒台に突入。最終周に01秒871をマークして再びトップに浮上。そこへ安村が01秒788をマークしてトップに躍り出たのだった。



**ポールポジション: 2'01.788**  
**#18 安村武志**  
**犬の乳酸菌.jp/プリミティブRT**

『セッションの最終ラップに裏ストレートで他車のスリッパに付く事ができて、ラッキーにもこのタイムが出せました。GP3では初ポールなので、チームやスポンサー、その他の大勢の皆さんに感謝しがありません。決勝レースは20周と長丁場なので、出来れば先行逃げ切りといきたいところですが、そこまでの余力は(自分には)なさそうなので…。自分の中でまだまだ“勝てる”と思っているから、この歳(48)でもまだ続けています。だから今回のポールポジションはとてもうれしいし、決勝レースでは、とにかく全力を尽くします!!』

